

野木町

教委だより

第3号
令和5年1月



教育長再任のあいさつ

教育長 菊地 良夫

この度、町長より推薦を受け、議会の同意を得て、3期目の就任となりました。

振り返ってみると、2期6年間という短い期間の中で教育改革の流れは激しいものがありました。国の施策としては、「幼児教育の無償化」「コミュニティスクールの導入」「いじめ防止推進条例の制定及び基本方針の策定」「教職員の働き方改革」「GIGAスクール構想に基づく教育活動」など挙げればきりがありません。

また、野木町独自の施策としては、「中学生海外派遣事業」「給付型奨学金制度の導入」「英語教育の充実」「食農教育の推進」「小規模特認校制度の導入」「学校給食における地産地消の推進」「野木町読書活動の推進計画策定」など多種多様な施策を行ってまいりました。

このような中で、最も対応に苦慮したことは、新型コロナウイルス感染症対策です。特に、2020年3月、国より突然の2週間の学校休業が示された時は、高校入試や卒業式等の大きな行事がある時期であり、また、子どもが休みとなれば、保護者の方々の仕事に大きな影響をもたらすため、どう対応するべきか大変苦慮いたしました。そこで、学童保育室を朝から開設し、仕事上休むことができない保護者に対し子どもを預かる体制をとると共に、保護者の勤務先への学校休業に伴う休暇取得の協力願いの通知を行いました。

卒業式は、休業期間に予定されていたため、修了式の日に合わせて実施することとしました。保育園等に関しては登園自粛（自由登園）の協力をお願いすると共に、クラスターが発生した場合の対応として、特別保育ができるよう体制づくりを行いました。また、社会教育施設に関しては、閉鎖することで対応いたしました。

ところが、学校休業は延長となり5月下旬まで続きました。この間に、感染防止対策のための準備やクラスター発生時の対応マニュアルの作成、更には入学式や修学旅行等の行事の中止や開催方法の変更など様々なところに影響を及ぼしました。町民の方からは、「子どもは1日の成長が大人と違い大きいのだから、早く学校教育を始めて欲しい」と心配の声も寄せられておりました。

6月から学校がスタートしましたが、行動制限がかかった長期休業は、登校することに対する意識が多少薄れてしまっているなど、子どもたちに大きな影響をもたらした印象を受けました。

今、振り返ると、まだまだ、この「新型コロナウイルス感染拡大防止」に関しては苦慮したことは沢山ありますが、良い経験ができたと感じております。

これまでの経験を生かし、今後とも野木町の教育行政の推進に取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第 77 回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が無事終了いたしました

ハンドボール成年女子・少年女子を下野市と共催で開催し、10月6日から10月8日まで白熱した試合が繰り広げられました。前回開催された国体は昭和55年の「栃の葉国体」でしたが、野木町で開催された種目はなく、野木町での競技開催は今回が初めてとなります。

国体を開催するにあたり、本町では開催基本方針の中に「地域の魅力を発する大会」「町民の協働と創意工夫を凝らした大会」「おもてなしの心あふれる大会」「地域スポーツの活性化」という4つ実施目標を掲げました。今大会において、10月6日から8日の3日間で100名以上のボランティアの方々が運営に携わり、選手・監督を始め、試合観戦に訪れた方々を温かく迎えていただきました。大会が開催されるまでに、プランターへの花の定植や、会場への花の飾りつけなどにも、多くのボランティアの方々に協力していただいております。このように多くの方が大会運営を支えたことも野木町の魅力のひとつです。

また、選手や来場された方へのおもてなしとして、野木町産のお米や野菜、株式会社不二家野木工場様のお菓子、中西珈琲様のホットコーヒーなどをふるまい、地域の魅力を発信してまいりました。

野木町は古くからハンドボールが盛んであり、現在も地域で小学生ハンドボールクラブが活躍しています。インターネット配信や現地で観戦した小学生は、国内トップレベルのプレーを観ることができ、刺激を受けたようです。国体のレガシーとして、この経験を地域がバックアップし地域スポーツの活性化に繋げていければと考えております。

本大会のスローガンである「夢を感動へ、感動を未来へ」が皆さまのご協力により実現されたことに感謝申し上げます。



いちご^{いちえ}一会とちぎ国体
夢を感動へ。感動を未来へ。